



平成18年3月10日

各 位

会 社 名 **MORESCO**
(登記社名：株式会社松村石油研究所)
代 表 者 名 取 締 役 社 長 中 野 正 徳
(J A S D A Q コ ー ド 5 0 1 8)
問 合 せ 先 広 報 室 長 長 尾 光 俊
電 話 番 号 0 7 8 - 3 0 3 - 9 0 5 8

MORESCO新中期経営計画のお知らせ

この度、2006年度から2008年度までの3年間を対象とする新たな中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

1. 中期経営ビジョン

「小さくとも世界にきらりと光を放つMORESCOグループ」
ー水と油と高分子のスペシャリストとして社会に貢献するー

2. 中期経営方針

2.1 世界に通用するナンバーワン製品を開発する

研究開発型企業である当社には、既存分野の工業用潤滑油やホットメルトの分野では、環境負荷が少なくかつコストパフォーマンスの高い製品、作業性に優れた製品等々数々の開発ニーズが寄せられています。また、電子材料分野では、より高い機能性を備えた製品がつねに追い求められています。こうした世の中の要請を受けて、当社は引き続き研究開発に多くの資源を投ずることによって、世界のナンバーワン製品の開発にチャレンジします。

2.2 グローバル企業を目指してボーダレスに営業展開する

当社はこれまで、主要ユーザーであるわが国自動車関連企業の海外進出に連れて、タイ、中国に工場を建設し、アジア各国を中心に販路を広げてまいりました。引き続きこの地域での営業を強化すると同時に、世界に通用する製品をもって、国境を意識することなく、ニーズのあるところに積極的に足を運んで営業展開ができる体勢を目指します。その行き着く先はグローバル企業です。この3年間でグローバル企業の足がかりを作ります。

2.3 オリジナリティの高い革新的な生産プロセスを開発する

当社の千葉、赤穂両工場は、長い歴史のなかで年々設備の改善、改良を重ねながら、増産や合理化等の効果をあげてきました。しかし、ここ1～2年をかけて生産プロセスを抜本的に見直したところ、いくつかの設備で一段飛躍した生産性を達成できるのではないかという可能性が見えてきました。そこで、独自の生産技術をもって新しい生産プロセス開発に挑戦していくことといたしました。

2.4 グループのノウハウを結集し新しいビジネスモデルを開発する

当社は、関係会社に、工場の排水処理に特異な技術を持つ(株)マツケン、油と水の分析では定評のある(株)モレスコテクノを擁しています。これら両社の持つノウハウに、当社がこれまで蓄積してきた技術や情報を融合させることによって、斬新なビジネスモデルを構築し、世の中に新しいサービスを提供していくことを目指します。

2.5 意欲と能力の向上により社員一人一人が精鋭化する

当グループは、内外関係会社を含めて300人強の企業です。高い意欲と能力を持った社員が、働き甲斐をもっていきいきと働く企業風土作りに取り組みます。そのために、人事制度、教育・研修プログラム等を絶えず見直し、その充実を図ることによって、精鋭化した社員の集団を目指します。

2.6 グローバル企業にふさわしいコーポレートガバナンス体制を構築する

新会社法の精神に沿って内部統制システムを構築するとともに、リスク管理体制の整備等コーポレートガバナンス体制を強化することによって、経営の健全性・透明性の確保と環境変化への迅速化を図り、企業の持続的な発展を目指します。

3. 中期経営計画

3.1 中期経営計画策定の考え方

当社事業を取り巻く内外経済環境は、総じて安定した成長軌道をたどると予測されます。1)国内外の自動車および関連部品、電子機器、情報家電等の産業は引き続き好調持続、2)化粧品、衛生用品等の消費財は堅調に推移、3)中国、東南アジアは高成長持続、4)他方、原油・ナフサ価格は高止まりが続くと捉えております。

これらの外部環境に基づく関係業界の動向に沿って、既存製品の安定した成長を確保し、加えて、電子材料分野への各種新製品投入、ダイキャスト離型剤や切削油等の環境対応品投入、高機能ホットメルトの用途拡充等、将来に向けて製品開発の成果を市場に供給していくことを目指してまいります。一方、営業面では、当社独自の機能性の高い製品を、世界の市場に販売していくための布石を打ってまいります。生産面では、能力アップ、安定生産、コストダウンを目指した革新的な生産プロセスを開発導入し、ユーザーの期待に応えてまいります。

3.2 売上高、利益計画（連結） [単位：百万円／年]

	2005年度見込	2006年度	2007年度	2008年度
売上高	11,335	13,030	14,060	15,180
営業利益	699	920	1,190	1,500
経常利益	746	940	1,220	1,550
当期純利益	435	540	740	960
経常利益率	6.6%	7.2%	8.7%	10.2%

注) 2005年度見込は当中期経営計画発表日現在の業績予想値であります。

3.3 部門別売上高の計画（連結） [単位：百万円／年]

	2005年度見込	2006年度	2007年度	2008年度
化学品事業	11,272	12,970	14,000	15,120
特殊潤滑油部門	(4,166)	(4,760)	(5,030)	(5,480)
合成潤滑油部門	(1,011)	(1,080)	(1,270)	(1,460)
素材部門	(2,512)	(3,140)	(3,200)	(3,430)
ホットメルト接着剤部門	(2,375)	(2,650)	(2,920)	(2,940)
その他	(1,208)	(1,340)	(1,580)	(1,810)
賃貸ビル事業	63	60	60	60
合計	11,335	13,030	14,060	15,180

注) 2005年度見込は当中期経営計画発表日現在の売上高予想値であります。

4. 重点事業戦略（概要）

4.1 特殊潤滑油部門

当部門の最大顧客である自動車メーカーの国内生産台数は微増、一方海外での生産は好調が見込まれています。さらに省エネを意図して自動車軽量化のための部品のアルミ化が進展し、自動車メーカーの内製を含めダイキャスト製品は国内外ともに高い生産の伸びが期待されます。それを受けて、当社主力製品の難燃性作動液は引き続き好調に推移すると予測され、ダイキャスト離型剤およびアルミ用切削油についても新規に市場投入した環境対応製品によって拡販、シェア拡大を図ってまいります。これらの特殊潤滑油は、海外においては中国および東南アジアを中心に販売活動を展開してまいりましたが、これからの3年間で新たな地域に足がかりを作るなど、将来に向けた布石を打ってまいります。差し当たっては、アメリカ、インドを候補地として検討を進めてまいります。

4.2 合成潤滑油部門

当社独自の合成技術による合成潤滑油は、自動車電装部品向け高温用軸受けグリースの原料として、世界のオンリーワン製品に育ちました。現在、ユーザーからの要請を受けてさらに適応温度領域の拡大に取り組んでいますが、あわせて情報機器用モーターの軸受け油等あらたなニーズが持ち込まれており、製品のバリエーション拡大に取り組んでいます。一方、ハードディスクの表面潤滑剤用途では、現在3.5インチメディアの約70%で採用されています。また、2.5インチ以下の小型ディスクでの採用はごく一部にとどまっていますが、次世代モデルに対応できる新潤滑剤の開発については、一部ユーザーサイドでの評価も始まっており、2007年度本格採用を目指しています。

4.3 素材部門

主に化粧品の原料やポリスチレンの添加剤として使われる流動パラフィンは、年初来海外の同業大手メーカーが相次いで設備トラブル等を起こして、製品輸入が極端に減少しており、回復までの長期化が懸念されております。当社の生産余力にも限度がありますが、国内トップメーカーとして生産体制を強化し安全運転に努めることによって、出来る限りの供給責任を果たしてまいります。なお、製造のための装

置は30年以上を経過して老朽化が進んでいることから、改修と同時に生産プロセスを大きく見直すりエンジニアリングに取り組んでおり、生産能力アップのみならず、製品の安定、コスト削減に寄与する設備に改善してまいります。

4.4 ホットメルト接着剤部門

主力である大人用紙おむつの用途は堅調な需要が見込まれますが、ベビー用の需要後退の影響からシェア競争はますます激しくなっているうえに、昨年来の原料高によるコストアップは厳しいものがあります。大幅なコスト低減を目指した生産プロセスの改善、中国の生産拠点の活用等によって収益力向上に努めてまいります。これまでも取り組んで来ているラベル用や自動車内装用等収益性の高い製品の開発がよりスピーディーに進展するよう、営業、開発体制を強化してまいります。

5. 研究開発の重点

5.1 研究開発の重点

研究開発の重点を「環境関連分野」と「情報関連分野」に置き、環境にやさしい製品や関連装置、および情報関連機器の高機能化に必要な電子材料などの新製品開発に取り組んでまいります。

〔環境関連分野〕

環境にやさしい製品としては、主に自動車産業で使用される難燃性作動液、水溶性切削油、ダイキャスト用潤滑剤などをリサイクルや長寿命化可能な製品にモデルチェンジを進めます。また、溶剤を含まない環境にやさしいホットメルト接着剤は、ラベル用途や自動車用途を中心に、溶剤型接着剤を代替できる高機能製品の開発を進めます。

環境関連装置では、「二次廃棄物が出ない水浄化装置」として、非破壊検査用薬剤廃液や印刷機械工場からの廃液を処理する装置の納入実績が得られました。今後はこの実績をもとに、利用分野の拡大を図ります。一方、水浄化の一環として開発を進めている当社独自の「光触媒と紫外線」を利用した殺菌装置は、水耕栽培の病害防除やクーリングタワーの除菌用途で実用化が進んでおります。全国的な展開を図るとともに、更に効率の良い製品の開発を行います。

〔情報関連分野〕

情報関連機器に使用される電子材料では、2007年からの立ち上がりが予想される2.5インチハードディスク（80GB/P）向けの潤滑剤を完成し、客先での認定評価へと進めます。更に、携帯音楽プレーヤーやビデオカメラなどの小型デジタル機器への搭載が進む、1.8インチ以下の小型ドライブ用へも展開していきます。また、テラビット級の大容量を必要とするパソコン、デジタル家電に向けては2010年実用化の予測に合わせた開発を進めます。

一方、研磨剤テーマでは、銅配線半導体CMPスラリーの技術開発を継続するとともに、得られた技術をハードディスクのテクスチャー加工や磁気ヘッドなどの表面加工用研磨剤に応用し、製品の多角化を図ります。

以 上